



Title	献辞
Author(s)	東條, 正
Citation	経営と経済, vol.90(1・2), pp.i-iii; 2010
Issue Date	2010-09-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/24911">http://hdl.handle.net/10069/24911</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-16T23:49:27Z

## 献 辞

菅家正瑞教授は、福島県のご出身で、昭和48年3月一橋大学大学院（修士課程）商学研究科を修了後、昭和48年4月長崎大学経済学部助手、同49年12月同学部講師、同53年4月同学部助教授を経て、同64年1月同学部教授に昇任され、平成22年3月定年により退職されました。

先生は、教育面では、長年にわたり学部専門教育科目として経営管理論・経営学史を担当し、平成9年のコース制への再編以降はコース基礎科目として経営管理論を、さらに入門ゼミと基礎ゼミを担当、また教養・全学教育では経済と経営、教養セミナーなどを担当して幅広く専門基礎教育や一般教育にも尽力されました。また、いち早く独自の学生による授業評価を実施し、ゼミ学生を長崎銀行で研修させ、マネジメント・ゲームを導入するなど、学問と実践の橋渡しに貢献されました。さらに平成7年度より開設された大学院経済学研究科修士課程（現博士前期課程）においては経営学、企業管理論特講、研究指導を、また平成16年度より開設された同研究科博士後期課程においてはトップマネジメント特論、企業管理特論、研究指導を担当し、学部と大学院の演習における研究指導を通して多くの有為な人材を社会に送り出すなど、長崎大学の教育において多大の貢献をされました。

研究面においては、主として企業管理を理論的に研究し、企業政策の学説史的研究及び企業管理の三重構造化すなわち「市民化管理」の成立をいち早く解明され、その後、企業管理の論理的体系化を究極的な目的として、企業管理の論理構造、環境管理へと研究の幅を広げ、さらに市民化管理の中核を為す「企業メセナ」の研究に取り組み成果を著書として刊行されました。

学内においては、経済学部長を3期6年、評議員を4期5年6ヶ月務め、学部組織の改革、大学院設立と改革に多大な貢献をなし、学内では各種委員を、また学部内では各種委員会委員に加えて総務委員長、教務委員長、学生委員長、講座主任、学部運営協議会委員長、人事基本委員会委員長として、さらに大学院では博士前期・後期課程における研究科運営委員会委員として、大学の運営に多大な尽力をされました。

学会における活動としては、『環境管理の成立』が環境管理に関する初めての体系的な研究書として専門分野研究者より高く評価され、独自の主張である市民化管理の成立を論理的・実践的に明らかにされました。市民化管理研究の一端である『企業メセナの理論と実践』は、我が国における企業メセナ研究の第一歩をなすものとして評価されています。また、日本経営学会、経営学史学会、環境経済・政策学会、九州経済学会に所属し、平成17年から21年まで九州経済学会理事を務められました。

また、社会における活動は多岐にわたり、長崎労働局長崎地方労働審議会会長、長崎保護観察所長崎保護司選考委員会委員、長崎県長期構想検討委員会会長、長崎県職業能力開発審議会委員、長崎市政治倫理審議会委員などを歴任され、国・長崎県・長崎市に対して様々な提言を行うなど、地域貢献にも尽力され、平成19年にはその多大な功績が認められ、厚生労働大臣から表彰を受けておられます。

以上述べましたように、先生は、長崎大学経済学部で36年余奉職され、評議員や学部長などの管理業務にも長期間従事されました。このため学内行政についても精通され、生き字引的存在でありました。また、晩年に体調を崩される前は、スポーツマンで学部内のテニスコートでテニスを楽しんでおられたお姿が思い起こされます。さらに、ご家族共々音楽に造詣が深く、これが晩年の企業メセナ研究にも生かされたものと思われま

先生の長崎大学の教員としての36年余の長きに渉る御貢献に、教職員を代表致しまして改めて感謝申し上げますと共に、今後の先生のご健勝を祈念して、本記念号の献呈の辞に代えることにしたいと思います。

平成22年 9 月

長崎大学経済学会長  
長崎大学経済学部長

東 條 正



管家正瑞教授